



# PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

## 『IMGA世界ジュニアゴルフ選手権』 結果

一般社団法人 国際ジュニアゴルフ育成協会(以下、IJGA)と株式会社ビーエスフジでは、PGMホールディングス株式会社に特別協賛を頂き、アメリカ・カリフォルニア州サンディエゴTorrey Pines (トリーパインズ) 他で行われる『IMGA世界ジュニアゴルフ選手権』への出場権獲得を目指す『P G M 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会』

(2017年2月25日九州・沖縄予選から2017年4月16日北海道予選までの7つの予選大会、そして2017年4月1日、2日西日本決勝大会、4月22日、23日東日本決勝大会) を P G M 運営の各ゴルフ場にて開催し、日本代表選手団を送り出しました。

2017年7月11日から7月14日まで行われました『IMGA世界ジュニアゴルフ選手権』の結果は以下となります。

### 【日本代表最終成績】

▽15-18歳の部男子 (パー72)

- 【1位】ペリコ (ペルー) = 280
- 【6位】河本力 (愛媛・松山聖陵高3年) = 289
- 【44位】中島啓太 (東京・代々木高2年) = 299
- 【51位】中澤大樹(兵庫・滝川第二高2年) = 304

▽15-18歳の部女子 (パー72)

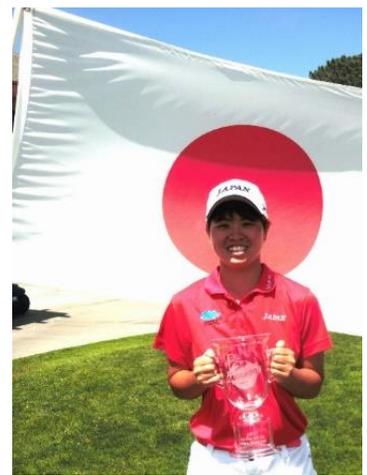
- 【1位】大林奈央 (兵庫・相生学院高3年) = 274
- 【3位】平岡瑠依 (大阪・大阪学芸高3年) = 280
- 【5位】河野杏奈 (千葉・麗澤高3年) = 283
- 【21位】吉田優利 (千葉・麗澤高2年) = 291

▽13-14歳の部男子 (パー72)

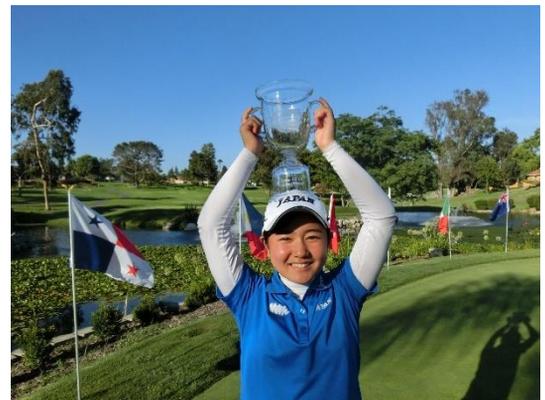
- 【1位】ヤン (米国) = 205
- 【41位】小林大河 (東京・金町中2年) = 224
- 【53位】松田正史 (熊本・花陵中2年) = 226
- 【62位】森下響 (兵庫・日新中2年) = 227
- 【71位】玄飼台 (茨城・滑川中3年) = 228

▽13-14歳の部女子 (パー72)

- 【1位】比嘉里緒菜 (沖縄・嘉数中3年) = 207
- 【6位】梶谷翼 (岡山・山陽女中2年) = 213
- 【14位】山田萌結 (長崎・山里中2年) = 218
- 【14位】花田華梨 (栃木・宝木中2年) = 218
- 【22位】梅津真優美 (山口・マシュー・C・ペリー中2年) = 221
- 【60位】榎本杏果 (東京・新宿中2年) = 232



女子15-18歳の部で優勝した大林奈央  
©IJGA2017



13-14歳の部女子で優勝した比嘉里緒菜  
©IJGA2017

▽11-12歳の部男子 (パー-72)

- 【1位】オウヤン (米国) = 203
- 【6位】吉沢己咲 (群馬・藤岡北中1年) = 210
- 【22位】黒田裕稀 (兵庫・豊岡南中1年) = 217

▽11-12歳の部女子 (パー-72)

- 【1位】森愉生 (岡山・倉敷西中1年) = 208
- 【10位】川畑優菜 (千葉・佐貫小6年) = 218
- 【12位】藤代成実 (埼玉・八幡小6年) = 225

▽9-10歳の部男子 (パー-72)

- 【1位】チャンタヌワット (タイ) = 211
- 【5位】梶谷駿 (岡山・総社東小4年) = 217
- 【8位】松井琳空海 (愛媛・高津小5年) = 221
- 【72位】山本大勢 (福岡・西小倉小4年) = 247

▽9-10歳の部女子 (パー-72)

- 【1位】リュウ (米国) = 214
- 【4位】二宮佳音 (群馬・笠懸北小5年) = 218
- 【7位】荒木七海 (熊本・築山小4年) = 222

▽7-8歳の部男子 (パー-74)

- 【1位】パーソンズ (米国) = 209
- 【6位】根本悠誠 (千葉・小山小2年) = 223
- 【16位】今屋大雄 (東京・月島第三小3年) = 239
- 【30位】星野煌貴 (群馬・榛東北小2年) = 252

▽7-8歳の部女子 (パー-57)

- 【1位】清水心結 (埼玉・中尾小3年) = 176
- 【2位】長峰真央 (千葉・北貝塚小2年) = 182
- 【8位】荻原すいみ (埼玉・明戸小2年) = 190
- 【10位】岩永杏奈 (兵庫・塚口小3年) = 192

▽6歳以下の部男子 (パー-54)

- 【1位】須藤樹 (東京・月島第三小1年) = 171

▽6歳以下の部女子 (パー-54)

- 【1位】※須藤弥勒 (未就学) = 178
- 【2位】蕪木梨央 (東京・番町小1年) = 183

【注】※は個人資格で出場した日本代表選手団外の選手



11-12歳の部女子で優勝した森愉生  
©IJGA2017



7-8歳の部女子で優勝した清水心結 (右) と  
接戦を演じた2位の長峰真央  
©IJGA2017



6歳以下の部男子優勝の須藤樹  
©IJGA2017

## < I M G A世界ジュニアゴルフ選手権 概況 >

◇2017年7月11日～7月14日◇ (15-18歳男女は4日間、他部門3日間競技)

◇米国カリフォルニア州トーリパインズGCほかサンディエゴ周辺コース

日本代表選手団で、大会3日目に最終ラウンドとなった男女各5部門のうち、4部門で「世界一」を獲得した。13-14歳の部女子で首位に6打差の8位でスタートした比嘉里緒菜（沖縄・嘉数中3年）が、7バーディー、ボギーなしの7アンダー65をマーク。通算9アンダー207で逆転優勝を果たした。11-12歳の部女子では、第2ラウンドでトップに立った森愉生（岡山・倉敷西中1年）が、この日も安定したゴルフをみせて1アンダー71で回って通算8アンダー208とし、出場3回目で優勝した。7-8歳の部女子では、第1ラウンドから首位の清水心結（埼玉・中尾小3年）がいったんは2打差2位でスタートした長峰真央（千葉・北貝塚小2年）に逆転されたが、6番のバーディーで再逆転し、2015年6歳以下の部に続いてこのカテゴリーでも優勝を果たした。6歳以下の男子では、須藤樹（東京・月島第三小1年）が2位に7打差をつける通算9オーバーで優勝した。

大会後に決まる来年のシード権は昨年実績（13-14歳から7-8歳の部は男女各6位、6歳以下の部男子3位、女子2位まで）によると、11-12歳の部男子6位の吉沢己咲（群馬・藤岡北中1年）、9-10歳の部女子4位の二宮佳音（群馬・笠懸北小5年）、6歳以下の部2位の蕪木梨央（東京・番町小1年）が確保できる可能性がある。梶谷翼（岡山・山陽女中2年）、梶谷駿（岡山・総社東小4年）、根本悠誠（千葉・小山小2年）、長峰は昨年優勝で2年シードを持っている。

また、4日間競技となる15-18歳男女の部門で、大林奈央（兵庫・相生学院高3年）が逆転で「世界一」に輝いた。女子の部最終ラウンドで、1位サソウ（フィリピン）に3打差2位で出た大林は、前半で2打縮めた後、10番でバーディーを奪い、ボギーとしたサソウを逆転。11番でも連続バーディーを奪って突き放し、この日ボギーなしの6アンダー66、通算14アンダー274で初出場優勝を飾った。昨年まで畑岡奈紗が2連覇しており、この部門で日本勢が3連覇を果たした。平岡瑠依（大阪・大阪学芸高3年）が3位、河野杏奈（千葉・麗澤高3年）が5位と日本勢が上位を占めた。男子は河本力（愛媛・松山聖陵高3年）が最終ラウンドで爆発、5バーディー、ボギーなしのこの日のベストスコア67で回り、通算1オーバーで6位に食い込んだ。団体戦は男子の河本、中島啓太（東京・代々木高2年）組が3位、団体2連覇中の女子は平岡、吉田優利（千葉・麗澤高2年）組が台湾に2打差2位だった。

## < I M G A世界ジュニアゴルフ選手権 ハイライト1 >

◇15-18歳の部女子◇最終日◇米カリフォルニア州トーリパインズGCコースC (6126ヤード、パー72)

大林奈央（兵庫・相生学院高3年）が、冷静に、鮮やかに、逆転劇を演じた。3打差でサソウ（フィリピン）を追いかけ、前半で1打差に詰め寄った後、10番でバーディーを奪って、ボギーにしたサソウを逆転。畑岡奈紗の連覇に続く日本勢3連覇を達成した。

15-18歳の部の日本選手団全員が待つ18番グリーン。いつものように、ひょうひょうと、表情を変えずに「世界一」のホールアウトをした大林に、チームメートは用意したペットボトルの水を一斉にかけて祝福した。「うれしいんですけど…優勝なんて全く（頭に）なかったの、ただただびっくりしてしまっただけが、優勝者の第一声。笑顔ものぞくが、どこなくひきつった表情なのは、言葉通り、予期せぬ出来事だったのかもしれない。

とにかくこの日はパットが入りまくった。1打差に迫った9番。サソウは2.5メートルのバーディーチャンスにつけたが、大林は5メートルのパーパットを残した。このパットをあっさりと決め、サソウが外して差が開かなかったのが、後半の逆転劇につながった。

「最近の試合で、トップとかに立っても最終日のバック9で失敗してばかりいたんで、不安というか、回るのが怖かった」という。10番、8メートルのバーディーパットを決める。バンカーショットをミスしたサソウは1.5メートルのパーパットが残っていたが、大林の後に打って外す。大林12アンダー、サソウ11アンダー。1ホールでひっくり返した。続く11番では2.5メートルを決めて連続バーディーで突き放す。

「きょうはあそこが一番でした」というのが、豪快な打ち下ろしの名物ホール15番パー3。風に流されて左の土手を転がり落ちた。「ラフが深く」とアプローチを打ち過ぎてピンを10メートルオーバーした。「焦ったらあかんと思いました。2打差あったんで」と気持ちを冷静に保って打ったパーパットが決まってパーセーブ。大事なロングパットが次々と決まり「今日はパットが来ている日だと思いました」と、自分でも「予感」があった。

「米国に来たのも、米国でゴルフをするのも、世界ジュニアに出るのも、全部初づくし。コースがあっただけだと思います。」

何より、グリーンがあった。4日間で3パットが1回もなかった」と振り返った。ドライバー飛距離240～250ヤードと飛ぶ方ではない。目指しているのは「無駄のないゴルフ」。フェアウエーに置くことを最大のポイントにし、コースマネジメントをしっかりとる。距離は短い、グリーンを含めて全体にアンジュレーションのあるコースを、巧みに落とすところを考えて攻めていった。「今までで一番無駄のないゴルフをできました」と笑った。通信制高校の3年生。進路を聞くと「正直、プロで活躍するのではなく、プロを支える方に興味があります」という。日本代表になり、代表合宿に参加した時に、日本選手団団長でプロゴルファーの井上透・国際ジュニアゴルフ協会代表理事の講習を聞き「測定の分析とか、日本と米国のスイングの違いとか、そうした話を聞いて、自分はこういうことがやりたいんじゃないかと思いました」という。ただ「最前線を知らないを支える側になれないと思う。その近道がプロだと思います」と、プロ入り志望も、将来を見据えたステップととらえている。

大きな大会での優勝は初めて。井上団長は「畑岡奈紗が初優勝した時のような感じがした。新しいタイプの選手が出てきた。とにかく、マネジメントがしっかりしている」と評価した。

### < I M G A 世界ジュニアゴルフ選手権 ハイライト 2 >

#### ◇15-18歳の部女子◇最終日◇米カリフォルニア州トリーパインズGCコースC（6126ヤード、パー72）

平岡瑠依（大阪・大阪学芸高3年）が最終日に追い上げを見せて3位に食い込んだ。「バーディーパットが入ってくれた」というように、前半猛チャージ。2番で奥2メートルを沈め、3番で右8メートルと波に乗った。4番5メートル、5番2メートルの4連続バーディー。後半に入っても11番で取った後、12番パー3では50センチにつけ、この時点で通算9アンダーに伸ばした。13番で左に曲げてボギーとして勢いが止まってしまったが、この日67、通算8アンダーで昨年2位に続いてトロフィーを手にした。

「どうせ優勝なんて無理やから、とりあえずスタートの7位から5位ぐらいを目指そうと。試合のベストが5アンダーだったんで、6アンダーにいたときは狙いましたが残念。毎日順位を上げられてうれしかった」と第1ラウンド10位からトップ3まで上げた。昨年2位のラ・コスタ・リゾートと違うコースでも力を見せ「グリーンが広くて固かったけど、ショットが良かった。スコアが出るコースだとは思いました。そういうコースでバーディーを取れるようにしていきたい」と今後への意欲も見せていた。

### < I M G A 世界ジュニアゴルフ選手権 ハイライト 3 >

#### ◇15-18歳の部男子◇最終日◇米カリフォルニア州トリーパインズGCサウスC（7213ヤード、パー72）

河本力（愛媛・松山聖陵高3年）が最終日に持ち味を發揮した。「距離があって、風があって、グリーンが難しく、大変なコース」といい、第3ラウンドまで6オーバー27位と苦戦。この日は「ドライバーがよかった。距離は誰にも負けていなかった」と、ようやく300ヤード超の長打力を披露。6、9番、11番で3メートルにつけてバーディー。13番で2メートルを入れ、14番では「右に曲がって、セカンドが木越えの153ヤード。フライヤーを計算してピッチングウエッジで打った」のが5メートルに乗り、5つ目のバーディー。最終18番パー5では2オンを狙ったがグリーン手前の池に入れた。それでも第4打を寄せてパーに収め、ボギーなしこの日のベストスコア67をマークした。

順位も一気に浮上して6位に食い込んだ。「最終日だけ楽しかった」と遅い爆発を悔やんだ。姉の結（日体大1年）が個人資格で出場しており、5位に入って、表彰式ではきょうだいでトロフィーを手にした。「ティーショットの精度とセカンドの距離感が必要。あとは気持ちの整理かな」と、難コースでのプレーで今後への課題を見つけていた。



15-18歳女子の大林奈央（大会初日）  
©IJGA 2 0 1 7



15-18歳の部男子6位に食い込んだ河本力（左）と個人資格で参加し同女子5位になった姉・結  
©IJGA 2 0 1 7

## < I M G A世界ジュニアゴルフ選手権 ハイライト4 >

### ◇13-14歳の部女子◇大会3日目=最終ラウンド◇米カリフォルニア州C Cランチョ・ベルナルド (5830ヤード、パー72)

比嘉里緒菜 (沖縄・嘉数中3年) が、圧巻のゴルフで昨年プレーオフ負けのリベンジを果たして、世界一に輝いた。この日は7バーディー、ボギーなしの7アンダー65をマーク。首位に6打差8位でスタートし、上位陣が伸び悩む中で通算9アンダー207に伸ばし、大逆転劇を演じた。

「やばいです。信じられない。めっちゃ、びっくりです」と大きな目をさらに大きくした。快進撃は4番で右10メートルを沈めてから。5番で6メートルを入れると「とにかく、パットがポンポン入りました」と振り返るように、7番1.5メートル、9番3メートルとチャンスを確実にものにした。インに入っても14番パー5で「得意のアプローチで1メートルにつけた」と5つ目。15番パー5では2オンに成功して6つ目。16番では第2打を70センチにつける3連続バーディーで抜け出した。最終組まで練習グリーンでプレーオフの準備をしながら2組待って「優勝」の報を聞いた。

前日までチャンスを数多く外してきて悩んでいたパッティング。第2ラウンドホールアウト後に練習し「1時間後にやっと入りだして、こうすればいいというのに気づいた」という。それまで30センチカップをオーバーさせる強さで打っていたが「テンポを速くして、70センチオーバーさせるようにすれば、思ったように転がってくれた」という。その夜、プロゴルファーで日本選手団団長を務める井上透・国際ジュニアゴルフ育成協会代表理事にパッティングの測定器を使って教えを受けた。「技術的には悪くないといわれました。米国のグリーンはテンポが遅いと入りにくいといわれたのが、私が気づいたことと同じだったんです」。自分で気づいたことに確信が持て、迷いがなくなった。

昨年、第1ラウンドで今日と同じ65をマークして首位スタートしたが、最終ラウンドで74をたたいてヴォラヴィスティクル (タイ) に追いつかれ、プレーオフで敗れた。涙でリベンジを誓ったが、その思いが実を結んだ。昨年の世界ジュニア前ぐらいから始めていた自宅の12階建てマンションの階段ダッシュを続けている。多い時で5往復。すれ違う住民からも「頑張ってるね」と声をかけられるという。

昨年との違いはどこにあったのだろう。「ショット力だと思います。ドライバーの飛距離が20ヤードぐらい伸びた」という。元々、フェースが開いてインパクトの時に手首を返していたが、手首の返しをなくしてスクエアに当たるようにスイングを変え、クラブも替えたところ、低めの強いボールを打てるようになった。念願の一番大きな優勝カップを手にした。昨年、泣き顔で2位のトロフィーと写真を撮ったのと同じ日の丸の前で、今年は笑顔いっぱい記念写真に収まった。



13-14歳の部女子で優勝した比嘉里緒菜  
©IJGA 2017

## < I M G A世界ジュニアゴルフ選手権 ハイライト5 >

### ◇11-12歳の部女子◇大会3日目=最終ラウンド◇米カリフォルニア州バーナード・ハイツC C (5652ヤード、パー72)

森愉生 (ゆい、岡山・倉敷西中1年) が3回目の挑戦で世界一に輝いた。前日首位に立ち、2位のツル (米国) に1打差でスタート。1番でいきなり3パットのボギーで並ばれたが、2番で5メートルを入れてリード。ツルが3番から3連続ボギーで崩れるなど、前半で5打差をつけて、悠々と逃げ切った。

世界一の気持ちを聞くと「うーん、うれしいんだけど、なんで今までシードも取れなかったのに、いきなり優勝なんだろ」と、笑顔で首をひねった。同じ岡山県の梶谷翼が連覇した部門で、日本選手3連覇を達成。その梶谷からは、優勝した時に使っていたコースの詳細なメモをプレゼントされてきた。「目標は翼さんの優勝スコア8アンダーを超えること」だったが、ほぼ優勝を決めていた最終18番で第2打をバンカーに入れてボギーにし、8アンダーと同じスコアになった。



11-12歳の部女子で優勝した森愉生  
©IJGA 2017

7-8歳の部で出た13年は7位、9-10歳の部の15年は10位と、あと一歩でシード権を逃してきた。今回もP G M日本代表選抜大会を勝ち抜いて来た。初めてショートコースではなかったのが、ドライバー飛距離240ヤードの力を発揮できた。「突き抜けるホールもあるからドライバーは5、6回しか使えなかった」というが、3番ウッドでのティーショットも同組選手のドライバーより飛ぶことも多かった。

中学生になり、部活動では「ゴルフに生かすため」と陸上部に入り短距離を選んだ。ゴルフに対する姿勢も、世界ジュニアはじめ多くの試合で「悔しい思いをした」ことで変化があった。「パターとかうまくなってきた。前は全然やってなかった。やっても身が入ってなかった」という。

今後の目標は「来年も勝つこと」という。13-14歳の部に上がる。これから取り組むのは「ミスした時のリカバリーをしっかりとできるようになることと、チャンスをちゃんと取ること」だという。初めて3日間アンダーパーで回ったのが「自信になった」という。飛距離からいっても、上のカテゴリーで十分戦えそうだ。

### < I M G A世界ジュニアゴルフ選手権 ハイライト5 >

#### ◇7-8歳の部女子◇大会3日目=最終ラウンド◇米カリフォルニア州シキュアンリゾート・パイングレンC (2412ヤード、パー57)

清水心結（みゆ、埼玉・中尾小3年）が、第1ラウンドから続いた2位長峰真央（千葉・北貝塚小2年）との接戦を制して、15年6歳以下の部に続き、2つ目の部門での優勝を果たした。長峰は16年6歳以下の部優勝の「後輩」。世界一経験者の対決は、清水が2打リードでスタートした。「今日はパターがダメで、真央ちゃんに抜かれた」というのは5番。長峰がこの日3つめのバーディーを奪って、リードした。しかし、清水も6番で取って並び、7、8番連続ボギーにした長峰を振り切った。「優勝できたのは、サポートしてくれた皆さんの協力のおかげです」と、宿舎近くで行われた解団式で大人びたあいさつ。優勝の要因を聞くと「いっぱい練習したから」という。それでも、練習は1日おき、水泳やテニス、ダンス、体操と他のスポーツも取り入れている。「強い自分が一番好き」と、負けず嫌いなところも競り勝てる要因になっている。

負けた長峰はこの部門では年下。昨年優勝のシード権（2年）がある来年も同じ部門に出場する。「勝てると思ったけど残念だった。でも、来年は絶対優勝する。練習も勉強も頑張る」といいながら、清水と走り回って遊んでいた。



7-8歳の部女子で優勝した清水心結  
©IJGA 2 0 1 7

### < I M G A世界ジュニアゴルフ選手権 ハイライト6 >

#### ◇6歳以下の部男子◇大会3日目=最終ラウンド◇米カリフォルニア州コリナ・パークGC (1230ヤード、パー54)

須藤樹（東京・月島第三小1年）が3日間首位で「完全優勝」した。2位テルフォード（米国）に5打差でスタートしたが、前半は大荒れ。7番までに1ダブルボギー、4ボギーと6つスコアを落とし、1打差に迫られた。キャディーを務めた父将行さんによると、緊張で腕は震え、力が入らない状態になり、プレッシャーで涙目になっていたという。「それで、アンダーならプロ遊びOKでしたけど、7番を終わって時に『残り10ホールで3アンダーにしたらプールOKにする』といったら、8番から3連続バーディーですよ」と、将行さんは苦笑い。優勝の感音を聞くと「気持ちよくない。眠い」と、世界一にはこだわっておらず、プール遊びの方に気が向いている様子。この日は将行さんの38回目の誕生日。「いいプレゼントをもらいました」とほめられて、ようやく「優勝してうれしかった」と笑顔を見せた。



6歳以下の部男子で優勝した須藤樹  
©IJGA 2 0 1 7